



第49回雑居まつり 第3回実行委員会 報告

- 開催日 2024年8月24日(土) 午後7時～9時
- 会場 児童相談所会議室A・B

◆雑居まつりを「継続する上での課題」について

- 各団体にとっての「雑居まつり」とは？また、各団体が活動を維持していくために苦労していることやうまく解決できたことなどがあったら教えて欲しい。
- 高次脳機能障害の自助グループで、月2回会合を開いている。6年継続してきたが、ボランティアの確保が大変。関わってもらえる人に障害特性を理解してもらうのも大変。人材を育成しても、すぐに離れていってしまうことも少なくない。
自分の後の活動がどうなるのか不安。
- 30年前から参加している。
30年間事務局の力が続いてきた秘密を知りたい。そこから今足りないものが見えるのではないか。
- 事務局会議に参加して、「雑居まつりって何？」と聞かれた。羽音ロックにとって、とても大切なイベント。昨年の羽音ロックを見て「かっこいい」「来年は出演したい」と感じてくれた若者もいる。このイベントをきっかけに活動が続いている部分もある。
プレーパークのワーカーや世話人の世代交代も、だんだんと難しくなっている。
- プレーパークを利用して自主保育をしている。
会に参加する家族が減ってきている。
街の中で障害者を見かけなくなった（関わりが少なくなった？）
雑居まつりは、いろいろな人たちと触れ合える大切な場所。
準備など大変なことも多いと思うが、たくさんの人たちと話し合いながら、自分のできることを見つけて少しずつ分かち合っていければ良いのではないか。
- 昔は「聴こえる人（マジョリティ）の意見が全て正しい」と思っていた。
大学の時に、障害特性に合わせて教えてくれる先生に出会った。そうした中で「いろいろな人がいて、いろいろな繋がり方がある」ということを知った。雑居まつりも同じで「いろいろな人に会える大切な場所」だと感じている。
- 熱量が少なくなっている。問題意識のある人とそうでない人と、同じ時間軸にいない。
それぞれが抱えている問題を解決できたのか？
バリアフリーになった事で、人と人の関わりが減ったんじゃないか？
人間同士の関わりが希薄になって、昔みたいに「共有できる困り事」について話し合うのが難しくなっている。
「不便から生まれる幸せ」がここ（雑居）にはある。
話し合いを重ね、それぞれの立場で選ぶことが大切。

○自分たちが関わっている問題（障がいを持つ子どもの教育）はずっと続いていくが、支え手はなかなか増えていかない。

雑居まつりには18回から参加している。雑居まつりと同じように、学校もいろいろな人が関わるべきだと考えている。最近ようやくインクルーシブ教育という言葉が聞かれるようになってきた。

雑居まつりで、さまざまな価値観と出会うことも大切。

できる事は手伝いたい。

昔の映像を見ていた時、若いおかあさんが、障がい者に寄り添っている人を見て「ヘルパーさん」とつぶやいた。当時は職業としての介助者が確立していなかったため、ほとんどボランティアさんが担っていた。昔と今（制度を作り上げてきた世代とすでに揃っていた世代）のギャップを感じた。社会の変化に対応することも考えていかななくてはならない。

○うちの団体は雑居まつりに参加して良いのか？と悩んでいる。参加する以上は何か手伝いたい。当日は自分たちのことで手一杯になってしまう。みんなそうではないか。

自分たちの団体も後継者不足。潰れそうになると「大切な場所だから続けよう！」と声が上がります。うちの団体は事務局を作らずに、みんなで話し合っていて続けている。

○人材不足。若手がない。特定の人に負担が偏っている。

昨年羽音ロックの人たちが声を上げてくれたように、次の世代につなげていくためにも、もう少し大人が頑張ろう。

○初めて雑居まつりに参加した時にほかの団体からイベントに誘っていただき繋がった。団体を続けていく上で、すごく大切な機会だった。

目新しいものはないのかもしれないが、雑居まつりの「質」は上がっている。

○雑居まつりが知られていない。プレイベントなどを開催してアピールしたら良いのではないかな。

○雑居まつりを広げるより、つなげていく意義を考えたい。

ホームページやフェイスブックをやっていることも知らなかった。

互いを知り合うために、参加団体の交流会があると良い。対面で話すことが大事。

雑居まつりを知る（歴史や意義）機会がある良い。

○あるイベントに関わったら大学生がいっぱい参加して、とても賑やかだった。

雑居まつりって、梅ヶ丘でも知られていない。国士館の学生とかを巻き込んでみたらいいのではないかな。

○雑居まつりって、実行委員会を通じて「新しい活動が生まれるエネルギー」を持っているのが凄さ。その凄さに支えられてがんばってることができた。

新しいエネルギーを生み出すために、50周年企画をがんばろうかな。

●今日の手話「お疲れ様でした」

腕時計を確認するときのように、片方の腕先を胸の前に地面と平行にして、もう一方の腕で肩を叩くように拳で「トントン」と叩く。表情も大切。にこやかに！